

一般財団法人セブン・イレブン記念財団の  
「2017年度NPO基盤強化助成」により  
**荒木川流域プロジェクトに取り組んでいます**

一般財団法人セブン・イレブン記念財団の「2017年度NPO基盤強化助成」に応募し、採用していただくことができました。（「荒木川流域の自然循環プロジェクト構想」にもとづき応募。三年間の助成）

荒木川は、国東市安岐町を流れ、その流域には会員で有機JAS認定事業の「社会福祉法人共生荘障がい者サポートセンター三角ベース・自然農園」があります。三角ベースさんに現地事務局をお願いし、地元のみなさんと力を合わせて荒木川流域の活性化に貢献していきたいと動き出しています。

荒木川流域は、源流から河口・海までわずか10kmの圏内に

あり、山・里・川・海の自然循環機能を思考ではなく、1日で実際に巡って体感できるという

恵まれた地理的条件にあります。また、「クヌギ林とため池がちなぐ農林水産循環」を謳う国東半島宇佐地域世界農業遺産としての要素も全て備える地域です。しかし、過疎高齢化・担い手不足により、耕作放棄地が広がっていることなどをはじめ、荒木川流域の大もとである源流域を中心に元気がなくなってきました。

こうした課題を単に源流域の問題として扱うのではなく、流域全体で解消していくための方策を考え、解決し、地域に活気を取り戻したいという活動です。

また、荒木川流域の生きものを知り、豊かな自然が描き出す美しい農村風景の中に、地域への誇りを取り戻すことも重要な課題と考えています。

みなさんのご支援ご協力をお願いしたいと思います。



↑源流域の耕作放棄地（左）を借り、田植えの準備が整ってきました（右）。



↑5月31日の「荒木川のほたるを見る会」に56名が参加。



↑川向うの耕作放棄地（段々畑）を再生しています

# 荒木川流域にひろがる可能性！

源流から河口まで約 10km

「クヌギ林とため池がつかなく農林水産循環」  
歩いてまわれる範囲にその全てがある。

テーマⅠ 山里川海の自然循環が1日でわかるモデル地区へ

テーマⅡ 河川の利水が困難であったために、複数のため池を連携させ、  
棚田の稲作を受け継いできた地域の歴史を次世代へつなぐ

荒木川流域は「国東半島宇佐地域世界農業遺産」の要素も全て備える



事務局：NPO法人おいた有機農業研究会 現地事務局：社会福祉法人共生荘障がい者サポートセンター 三角ベース

一般財団法人  
セブンイレブン記念財団  
この活動は、一般財団法人セブンイレブン  
記念財団の助成を受けています。